

柏崎刈羽原子力発電所見学記

長野県 大竹収（おさむ）

10月5日に、柏崎刈羽原子力発電所を見学してきた。見学者は、私と家内の二人だけだった。



この先が、柏崎刈羽原子力発電所の敷地である。ところが、敷地の縁の道路を回っても、林が邪魔をして、原発施設は全く見えなかった。目論見が外れて、ガ

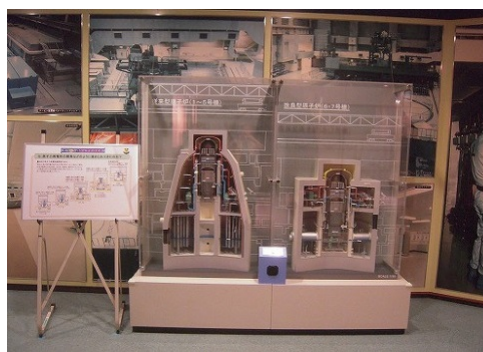


ツカリしたところ、東京電力のサービス・ホールなる施設があったので、そこへ立ち寄った。

まず、サービス・ホールのプレゼン・ルームで、男性担当者から、およそ15分間の説明があった。説明の冒頭に、福島事故に対する謝罪の言葉があった。説明の内容は、主に3.11以降の津波、地震対策に関するものだった。



サービス・ホールには柏崎刈羽原発に関する資料が展示されていた。五分の一の原子炉の



模型。これで見ただけでも、極めて複雑な構造の、難しい設備であることが理解された。

他にも、いろいろな展示があった。

この見学だけでも良いつもりだったが、土、日、休日は、原発敷地内の見学サービスがあると受付嬢から聞かされて、早速申し込んだ（写真撮影が許されなかったので、これ以降は画像をお見せできないのが残念）。



見学のための車に乗り込んだ。車は普通乗用車だ

ったので、少し驚いた（バスかと思った）。若い女性が運転をし、所内を見学させて貰った。同時に説明を受けた。他に見学者がいなかったので、丁寧な説明を聞き、また質問にも答えて貰えた。

敷地の入口で検問を受け、中に入った。入り口には「対テロ警戒中」などと書かれていたが、物々しさは無く、本気でテロリストが襲ったら、突破されそうな感じを受けた。検問のゲートは標高60mくらい。そこからしずしずと下り、標高30数メートルの広場に立ち寄った。そこには、非常用電源車20台くらい、注水用の消防車（ポンプ車）10台くらいが駐車していた。さらに、冷却水を確保するための熱交換器を積んだトレーラーが2台、非常用ガスタービン発電機を積んだ車両が2台あった。地震等で所内の電源が止まったばあいは、ここから出動する体制とのこと。また、所内の道路が通行できなくなる可能性もあるので、地下埋設でケーブルを引いてあり、そこに接続することで給電できるとも。

さらに下って、事務棟と免震重要棟の脇を通過した。中越沖地震の際に、事務棟が破損して使えなくなり、屋外で対策会議をやったそうである。その反省から、免震重要棟を新たに建設した。同じものを福島に作ったが、それが大いに役に立ったと。その事実を、どう評価したら良いのか。「事が起きるたびに生じる、新たな、想定外のトラブル」という構図が頭に浮かぶ。

海辺の取水設備がある場所まで降りた。そこと原子炉建屋との間には、津波対策の高さ10mの防潮堤が、刑務所の壁のようにそびえていた。これは3.11以降に新たに設置されたもの。この地で想定される津波高さはもっと低いが、福島を鑑みて、15mの津波が来ても施設に入らないように計画したと。

原子炉建屋、発電建屋を間近に見下ろす場所まで戻った。万が一津波が防潮堤を越えて侵入した場合でも、建屋の中に海水が入らないよう、海拔15m以下の開口部には防水壁を設けた。また、搬入口などには、水密扉を設置した。

ここまでは1～4号機（柏崎市側）を見たが、これから5～7号機（刈羽村側）に移動する。両者の間に小高い丘があり、展望台となっている。高台から施設を一望した。高さ150mの排気塔が立ち並んでいる。従来は4本の鉄パイプの脚が、排気塔を囲む形でサポートしていたが、その後地震への強度を増すために、各々の脚に二本ずつ追加して、計12本の鉄パイプでサポートしているとのこと。

展望台の山側に、貯水池があった。これも新設されたとのこと。事故が起きて、海水によ

る冷却が不能になった場合は、この貯水池の水を使うとのこと。貯水量は2万トンで、1週間分をまかなえると。その水源は、井戸だそうである。

5～7号機の敷地には、火災事故に備えての消防車が待機していた。目にしなかったが、1～4号機側にも配備されているとのこと。これは、中越沖地震の際に所内で火災が発生した教訓から、配備されたい（それまでは無かったのか？）

協力会社の事務所（プレハブ）が集まっているエリアを通り過ぎた。原発が完全に停止している現在でさえ、東電社員が千人あまり、協力会社の従業員が三千人あまりと、合計5000人あまりの人が働いているそう。完全な赤字状態だから、余計な出費は極力切り詰めているのだろう。プラント全体に、おそらく昔日の面影は無い。うらぶれた、すさんだ雰囲気のようなものが感じられた。

建屋の外から見ただけだったが、目の前で世界最大の原子力発電所を見たのは、かなりのインパクトだった。

事前には40分程度と聞かされていた見学だったが、質疑応答に熱が入ったためか、実際には1時間くらいかかった。

案内をしてくれた女性に、地元で暮らしているのかと聞いたら、そうだと答えた。出身も地元だそうである。最後にアンケートを書かされた。丁寧に説明をしてくれた彼女には悪かったが、「原発は必要だと思いますか？」の質問に対しては「必要ない」と書いた。

感想を一言で述べるならば、津波対策は理解できたが、原発の安全性を納得できるものは無かった。もっとも、どのような説明を聞いても、納得できはしないだろうが・・・

（原発の設備に関する画像は、サービス・ホールに展示されている原子炉の5分の1の模型と、説明パネル、そして安全対策のパンフレットからの引用です）。